

# 経済・金融 フラッシュ

## 中国経済： 1-2月の景気はさらに減速

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

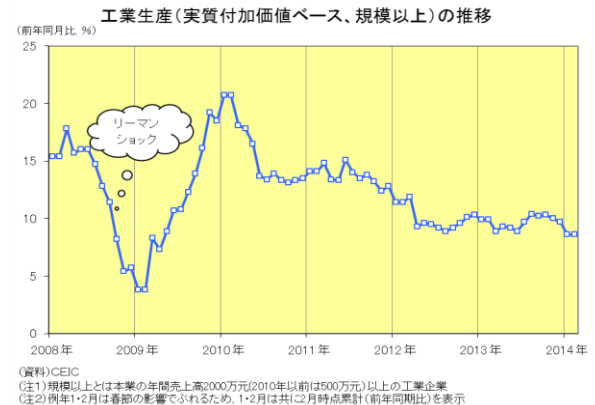
TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 中国では、中国税関総署が3月8日に貿易統計を発表、中国国家统计局が9日に消費者物価を、13日に工業生産、小売売上高、固定資産投資を発表し、1-2月の主要な経済指標が出揃った。
- 1-2月期は、工業生産が前年同期比8.6%増と昨年12月を1.1ポイント下回り、輸出・消費・投資の3本柱が揃って減速するなど、景気はさらに減速した。中国政府は既に、短期金利の低下を容認、ドル買い介入で人民元高にも歯止めをかけて、景気でこ入れに動き出した模様だが、「7.5%前後」の成長目標を掲げているだけに、更なる景気対策を打ち出す可能性もある。
- また、2月の消費者物価は前年同月比2.0%上昇と1月より0.5ポイント上昇率が低下した。

### [ 工業生産 ]

1-2月期の工業生産（実質付加価値ベース、規模以上）は前年同期比8.6%増と昨年12月の前年同月比9.7%増を1.1ポイント下回る大幅減速となった。これまでも9%を下回ることには度々あり、2012年8月、2013年3月と6月の3回ともに同8.9%増で留まってきたが、今回はそれを下回り、リーマンショックで大きく落ち込んだ後に少し回復した2009年4月の同7.3%増以来の低い伸びとなった（図表-1）。なお、季節調整後の前月比でも1月が0.59%増、2月が0.61%増と、10-12月の伸びを下回る伸びに留まっている。

(図表-1)



(図表-2)

消費者物価(分類別、前年同月比) (単位:%)

	消費者物価							消費品 (モノ)		サービス	
	食品	うち 生鮮野菜		衣類	家庭用品 サービス	交通通信	娯楽教育 文化用品 サービス	居住			
2013年1月	2.0	2.9	2.6	2.5	1.5	▲0.3	0.5	2.9	2.0	2.2	
2013年2月	3.2	6.0	10.0	2.1	1.6	0.2	2.0	2.8	3.3	3.1	
2013年3月	2.1	2.7	▲10.3	2.3	1.6	▲0.3	1.7	2.9	1.7	3.1	
2013年4月	2.4	4.0	5.9	2.5	1.6	▲1.1	1.5	2.9	2.2	2.9	
2013年5月	2.1	3.2	▲1.9	2.5	1.6	▲1.2	1.3	3.0	1.8	2.8	
2013年6月	2.7	4.9	9.7	2.3	1.5	▲0.7	1.4	3.1	2.6	2.7	
2013年7月	2.7	5.0	11.8	2.2	1.4	▲0.1	1.3	2.8	2.7	2.7	
2013年8月	2.6	4.7	5.2	2.2	1.4	0.0	1.2	2.6	2.5	2.7	
2013年9月	3.1	6.1	18.9	2.3	1.4	▲0.2	1.9	2.6	3.1	2.9	
2013年10月	3.2	6.5	31.5	2.4	1.5	▲0.6	2.5	2.6	3.2	3.1	
2013年11月	3.0	5.9	22.3	2.0	1.3	▲0.5	2.8	2.6	2.9	3.3	
2013年12月	2.5	4.1	2.6	2.1	1.4	▲0.1	2.9	2.8	2.2	3.3	
2014年1月	2.5	3.7	2.1	1.9	1.5	0.2	3.3	2.8	2.0	3.7	
2014年2月	2.0	2.7	3.3	2.2	1.3	▲0.4	2.1	2.8	1.6	2.9	

(資料)CEIC(中国国家统计局)

### [ 消費者物価 ]

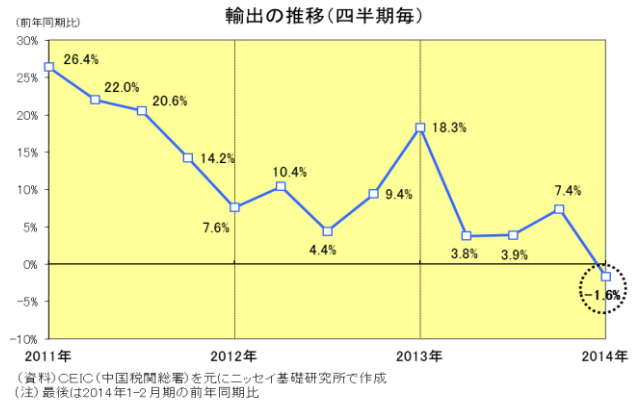
また、2月の消費者物価は前年同月比2.0%上昇と前月を0.5ポイント下回り、今年の抑制目標である3.5%前後を大きく下回ってきた。食品価格が前月の3.7%上昇から2.7%上昇へ落ちるなど春節が明けた影響もあるが、サービス価格の上昇も鈍ってきており、物価は落ち着いてきたといえるだろう（図表-2）。

## [ 輸出・消費・投資の3本柱 ]

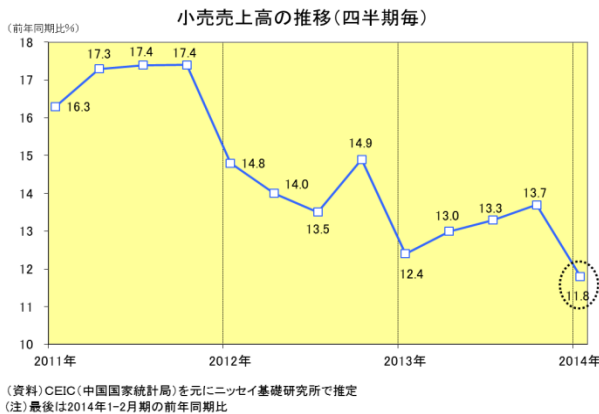
需要動向を示す輸出・消費・投資の3つの代表指標も出揃った。2月の輸出金額は前年同月比18.1%減と大きく落ち込んだ。春節の影響を排除するため1-2月期累計で見ても前年同期比1.6%減と、10-12月期の同7.4%増を大きく下回っている(図表-3)。輸出先別に見ると、米国・欧州・ASEAN向けが揃って鈍化しており、輸出環境が悪化した恐れもでてきているが、香港向けが2割超減するなど異常に落ち込んだことを考えると、前年同時期に問題となった“輸出水増し”の反動減の可能性もあるため、3月の数字を見極めてから判断する必要があるだろう。

一方、消費の代表指標である小売売上高は、1-2月期累計で前年同期比11.8%増と当研究所が推定した昨年10-12月期の同13.7%増を大きく下回った(図表-4)。季節調整後の前月比で見ても1月は0.78%増、2月は0.71%増と、10-12月の伸び(0.93-0.94%増)を下回っており、消費の伸びは大きく落ちた。また、投資の代表指標である固定資産投資(除く農家の投資)は、1-2月期累計で前年同期比17.9%増と、当研究所の推定した昨年10-12月期の同17.8%増と同程度だが、季節調整後の前月比で見ると1月は1.35%増、2月は1.33%増と、10-12月の伸び(1.38-1.46%増)を下回っており、投資の伸びも若干落ちているようだ。(図表-5)。

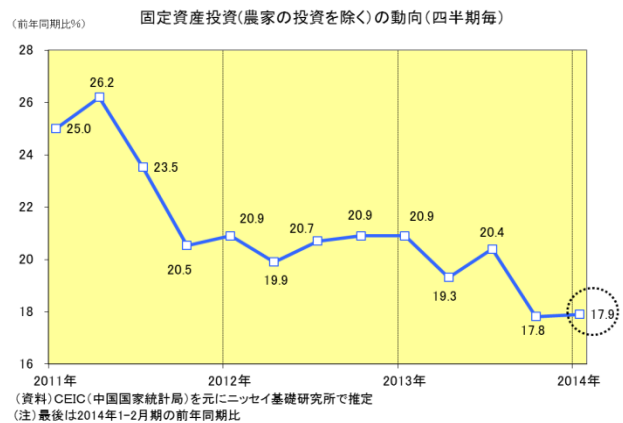
(図表-3)



(図表-4)



(図表-5)



## [ 今後の注目点 ]

以上のように、1-2月の経済指標は中国の景気が更に減速したことを示す結果となった。中国政府は2月中旬には既に、短期金利の低下を容認、ドル買い介入で人民元高にも歯止めをかけて、景気てこ入れに動き出した模様だが、次回発表の3月の経済指標でその効果が見られないようなら、「7.5%前後」の成長目標を掲げているだけに、更なる景気対策を打ち出す可能性もでてくるだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。